



# たっち

平成21年  
(2009年) 12/10  
年2回発行

第14号

編集・発行／立川市教育委員会  
〒190-0022 立川市錦町3-2-26  
☎042(523)2111(市役所代表)  
◀立川市ホームページ▶  
<http://www.city.tachikawa.lg.jp/>

教育だよりの「たっち」は、みんなの心や輝きへの「タッチ」を通して、「たちかわ」の地域・家庭・学校が手をつないで、生涯を通じた学びを推進したいという思いを込めて付けた名前です。

## 立川市では、学校図書館の充実に取り組んでいます



立川市では、児童・生徒の豊かな心の育成を目指して、平成20年度より全小学校に司書の資格をもつ学校図書館支援指導員を、週2日派遣しています。どのような活動を行っているか、幸小学校の取組を例にご紹介します。

### 読書活動の充実に向けた幸小学校の取組

幸小学校では、特色ある教育活動として、読書活動に力を入れて取り組んでいます。

その一つは、授業における学校図書館を利用した学習指導です。近年、学校でもパソコンなどの情報機器が導入され、「調べ学習」イコール「ネット検索」というイメージをもっている子どもが多くなっています。しかし、幸小学校では、安易にインターネットに頼らず、まずは図書を使って情報検索する力を身に付けられるよう、指導の工夫をしています。

この指導では、学校図書館支援指導員の方も授業に入ってもらっています。まず、学習カードを使って、目次や索引の使い方、奥付の意味、引用の仕方などを学び、調べ学習を進めるための練習をします。このように基礎をしっかりと身に付けさせた上で、各自のテーマに沿った調べ学習に入ります。段階的な指導と支援指導員の協力による様々な学習において、子どもたちの情報活用能力を伸ばしています。

もう一つは、学校図書館の整備をはじめとする、読書環境の充実です。本校の図書館に入ると、まず目にとまるのは季節に合わせた装飾や、掲示物です。これは主に本校保護者を中心とした学校図書館ボランティアの活動によるものです。活動を始めた頃は、除籍本の廃棄や、ラベルの貼りかえなど、環境を整備するための下地作りの作業が中心でした。それらの作業が一段落し、本が正しく配架できるようになると、装飾や掲示の工夫、クイズコーナーなど、子どもたちの心を引き付ける楽しい工夫ができるようになりました。また、奥行きのある書架に置かれた本を子どもたちが取りやすくするために書架の奥に箱を置く工夫も、ボランティアの方のアイデアによるものです。

読書週間には、図書委員による図書館での読み聞かせや、本を多く読んだ児童への手作りのしおりのプレゼント、そして読書クイズなど、図書館に多くの子どもたちを引き付けるための工夫をしています。

これからも、子どもたちにとっては身近な存在としての、そして教員にとっては学習を支えてくれる存在としての学校図書館づくりを通して、幸小学校の特色である読書活動の充実に取り組んでいきます。



本に興味をもたせるため、装飾に工夫をしています



本の探し方について、学習しています



ボランティアの方にご協力いただき、装飾を作っています



図書委員の児童が低学年の児童へ読み聞かせをしています

※全国学力・学習状況調査の詳細、「家庭学習改善プラン」は立川市のホームページを、授業改善推進プランの詳細は各学校のホームページをご覧ください。

このことから、ぜひご家庭でも次のことを見直してみたいかがでしょうか？

**「家庭学習改善プラン」**

- ①生活のリズムづくり  
早寝・早起き、朝食と排便を身に付けさせましょう。
- ②学習の習慣づくり  
ケータイやゲーム、テレビの時間や約束を決め、学習する時間を習慣付けましょう。
- ③「私は家族の大切な一人」と実感させるために…  
どんな小さなことでも努力を認め、励まし、ほめましょう。
- ④学校とともに子どもへの支援を！  
毎日、学校での出来事一つでも家庭で話題にしましょう。

と分析しています。家庭での生活がとても大切であることが分かります。

①家で学校の宿題をする ②読書が好き ③携帯電話について、家の人との約束を守っている ④朝食を毎日食べる ⑤家の人と学校の話をする

率の高い子どもは、国立教育政策研究所は、この調査結果のポイントとして、正答

またこの調査では、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する項目もありました。こちらの調査結果もおおむね良好な状況にあり、特に小学校では、「朝食を毎日食べている」「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」「家の手伝いをしている」「読書が好き」、中学校では、「将来の夢や希望をもっている」「学校で好きな授業がある」「学校の規則を守っている」「近所の人に出会ったときはあいさつをしている」などの項目で、「はい」と答えた割合について、立川市の子どもたちは全国平均を上回っています。

調査教科は、それぞれ国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学Bの4つがありました。Aの問題は主として「知識」に関する問題、Bの問題は主として「活用」に関する問題です。

立川の子どもたちはそれぞれの調査で、全国（公立）の平均とほぼ同じと分析しています。

文部科学省は、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施した平成21年度全国学力・学習状況調査の結果を、8月27日に公表しました。

**平成21年度  
全国学力・学習状況調査  
の結果等について**

# 立川市では、小・中学校にハートフルフレンドを配置しています

子どもたちに近い年齢の「お兄さん・お姉さん」(臨床心理士を目指す大学院生等)が、児童・生徒の学校生活の適応に向け、相談等を行っています。また、同じく今年度より全中学校と小学校2校に週3日、登校支援員(スクールサポート・アシスタント)を配置し、不登校の解消や未然防止に向け、家庭訪問や登校時の個別指導等を行っています。ここでは、立川第五中学校での活動の様子を紹介します。



生徒1人1人を大切に、声かけをしています

相談活動の充実を目指して「ハートフルメンバー」の活用を通して、立川第五中学校

立川第五中学校では、「ハートフルフレンド」と登校支援員(スクールサポート・アシスタント)が「ハートフルスタッフ」として生徒の教育相談に当たっています。学校では、どちらも「ハートフル」と呼んでいます。主な活動は、学校になかなか馴染めなかったり、悩みや課題を抱えていたりする生徒を心理的にサポートして、楽しい学校生活を送れるよう支援することです。具体的な活動としては、常に校内巡回を行い、生徒と日ごろから気軽に相談できるような人間関係を作るようにしています。また、休み時間に街角相談のようにして悩み事を聞いたり、教室でポツンとしているような気になる生徒に声をかけたりしています。他にも、不登校傾向の生徒が別室登校した際に学習支援をしたり、または家庭訪問をして一緒に登校したりするなど、学校生活に馴染めるようサポートしています。ハートフルの活用は今年度からの取組なので、現在に至る

までに様々な工夫を凝らしてきました。文部科学省「問題を抱える子ども等の自立支援事業」東京都「スクールサポート・アシスタント(登校支援員)事業」立川市「ハートフルフレンド」派遣事業

この3つの支援制度を活用して、スクールカウンセラーと教育相談コーディネーターの養護教諭を合わせて「ハートフルメンバー」としてチームを組み、日々、生徒の心理的サポートに尽力しています。【表1・参照】

まず、スクールカウンセラーが来校する毎週火曜日の1校時に、ハートフルメンバー会議を定期開催することにしました。主に、生徒の様子について対応の仕方の2点を共通理解するためのメンバー会議です。この会議を定期的に行うことで、生徒の小さな変化についても話し合う場をもつことができ、より深い生徒理解につながっています。また、小さな変化に敏感になることで、生徒の悩みがより深刻化する前に、または深刻化してしまった場合は迅速に、担任や学年と連携した対応が取れるようになりました。これは、ハートフルが毎日勤務し、生徒

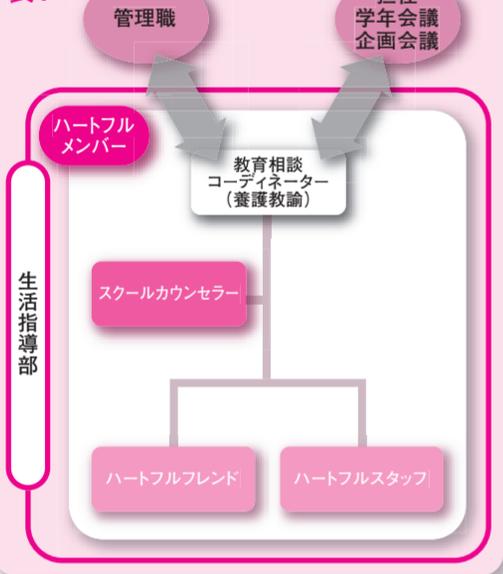
と触れ合っているからこそ情報であり成果なので、大切にしています。加えて、メンバー会議の中で、心理の専門家であるスクールカウンセラーから心理学的アプローチの仕方を教えてもらうこともでき、メンバー全体のスキルアップにもつながっています。

その他に、ハートフルの2人が日々の生徒の様子を記録するために「ハートフル日誌」を作りました。それを基に、1日の生徒の様子を毎日、教育相談コーディネーターに報告して、必要な対応を迅速に行えるようにしています。さらに、教育相談コーディネーターが、担任や各学年会議、企画会議などで生徒に関する情報のやり取りを行うための確かな支援を行えるよう、また、ハートフルメンバー以外にも生徒の対応にズレが生じないように心掛けています。

その他にも細かな工夫を積み重ね、現在では不登校だった生徒が毎日のように登校できるようになり、授業に参加できる回数も増えてきています。

これからは、さらに担任や学年との連携を強め、生徒の様子についての情報のやり取りを密にして、より効果的な支援を行いたいと思っています。

表1



## 立川の学校が東京都教育委員会主催の発表会で発表を行いました

### 人権尊重教育推進校の取組 第三小学校

本校は、東京都教育委員会人権尊重教育推進校として、「認め合い、学び合い、高め合う児童の育成」をテーマに、人権教育の充実を目指しています。教育活動全体を通して自他のよさを認め合える態度を育成するために、年間を通し、①人権に関する正しい理解を深めさせ、様々な人と交流するなど、計画的に人権教育を進める。②たてわり班活動を行い、互いのよさを認め合う意識をはぐくむ。③「三小 学習のやくそく」を全教室に掲示し、学習規律の確立を通して認め合い学び合う環境をつくる。などの実践を行っています。

これらは、10月1日の都民の日に東京都教職員研修センターで行われた「東京都教育実践発表会」で、広く都民の皆様を紹介しました。

本校では今後とも人権教育に力を入れ、「みんなが輝く第三小」を実現させるため、充実した教育活動を推進して参ります。



三小人権マーク

### スポーツ教育推進校の実践発表 立川第二中学校

本校は、平成20・21年度、東京都教育委員会スポーツ教育推進校の指定を受け、「たくましく健やかな心身をはぐくむ教育活動の推進」を研究主題として、保護者や地域の皆様と協働した教育活動を推進しています。10月1日の都民の日に東京都教職員研修センターで開催された「東京都教育実践発表会」において、全都のスポーツ教育推進校100校の中の代表校として発表しました。

発表事例は、昭和57年から地域の三町(曙町、高松町、栄町)により28年間続けられている「三町合同・中学生スポーツ大会・高尾山ナイトハイキング」を中心に、地域と連携・協働し成果をあげている本校の特色ある取組の様子を紹介しました。

現在も二中サポートボランティアなど、地域の教育力や人材を活かした実践を通じて、スポーツ活動に親しみ、生涯にわたって健康な生活を送るための基礎体力づくりに取り組んでいます。この研究は今後も継続し、来年の2月19日(金)に2年間の研究成果を発表いたします。多くの方々のご来校をお待ちしております。



### ゴミ出しボランティア～できることをコツコツと～ 若葉小学校

10月17日(土)に、東京都教職員研修センターで開催された「未来を拓く体験発表会」では、都内小学校の中から選ばれた代表として、若葉小ゴミ出しボランティア(現在26名活躍中)の代表児童3名が発表を行いました。

3名とも日ごろ取り組んでいる様子を話した後、「私たちのやってきたことは、どの学校でもできます。ぜひ皆さんの学校でも取り組んでみませんか。」と呼びかけ、会場から大きな拍手をいただきました。子どもたちのためにいつもご協力いただいているご高齢の皆様へ深く感謝するとともに、この活動の継続と発展を願い、今後も子どもたちと取り組んでいきたいと思っています。



### 東京都教育委員会からの表彰

#### CO2削減に取り組みました 西砂小学校

今年の6月の1週間、東京都教育委員会が実施している、地球温暖化防止に向けた「CO2削減アクション月間」に、西砂小学校の4年生以上の子どもたち全員が取り組みました。

テレビ等の電気器具のプラグを必要がないときはこまめにコンセントから抜く、テレビを見る時間を減らす、買い物のときはエコバッグを持参する、歯を磨くときは水を出しっぱなしにしないなど、家庭で親子一緒に気を付けてみました。

この取組の中から、子どもたちは日常的に意識して行動を起こせば、簡単にCO2を削減できることを学びました。さらに、東京都教育委員会から「環境教育優良校」として表彰され、表彰式には、学校代表として児童会代表委員長の土屋業由佳(6年生)さんが出席して、盾をいただきました。今後は、学校全体の取組に広がっていきたく考えています。



## トップアスリートから 伝えられたメッセージ



立川第五中学校にはビーチバレーボールの元オリンピック選手 高尾 和行さんがいらっしゃいました。

### 第八小学校

7月15日、文部科学省の「トップアスリート派遣指導事業」により、本校の五年生対象に「バスケットボール教室」が開催されました。

講師は、バスケットボールの元日本代表選手であり現JBL日立サンロッカーズのヘッドコーチである小野秀二さんです。体育館に集合した子どもたちは、小野さんとの出会いを心待ちにしていました。小野さんは、ヘッドコーチとしてテレビで見

る厳しい表情とは異なり、温かく笑顔で子どもたちに語りかけてくださり、誰もが心を開いて笑顔いっぱい楽しみながら運動していました。

教室終了後には、「バスケットが好きになったので、またやってみよう。」等の感想が寄せられ、校庭で互いに誘い合ってバスケットボールを楽しむ姿が多く見られるようになりました。



「バスケットボールは、一人ではできない。そこがおもしろい！」小野さんから伝えられたメッセージを子どもたちは今、体感しています。

### 上砂川小学校

本校では、子どもたちがトップアスリートと直接交流することで、スポーツにより一層親しみ、健康増進や体力向上に努めることにつながると考え、7月6日に、アテネオリンピックでサッカー男子日本代表監督を務めた山本昌邦さんをお招きしました。

山本さんは自身の体験を基に、「スポーツは失敗を経験させてくれるもの。失敗を乗り越えて成長することこそが大事」と語りかけるなど、子どもたちにアスリートとしての生き方や考え方を伝えてください。



子どもたちからは「実際にオリンピックに参加した人が自分の学校に来るなんてびっくりした。」などの感想があり、スポーツに対する関心・意欲を高めることができました。

### アジアユースパラゲームズに参加して 立川第一中学校

9月に、世界27カ国が参加してアジアユースパラゲームズが東京で開催されました。立川第一中学校3年生の渡邊健太君は日本代表として、「ボッチャ」という競技に出場しました。ルールは「カーリング」に似ており、「ジャックボール」という白いボールに自分のボールをいかに近付けるかを競うものです。距離・方向を考え、制限時間内に投げます。一投で攻守が入れ代わってしまうこともあるので、最後まで気が抜けない競技です。団体戦では、一人一人の心が仲間を思い合



### 全国中学校水泳競技大会に参加して 立川第三中学校

8月21日から3日間、福岡で開催された第49回全国中学校水泳競技大会において、立川第三中学校3年生の和田真君が100メートル自由形で優勝しました。和田君は、全国大会に向けて、弱点を補強し、日本や世界のトップスイマーの泳ぎのよい点を取り入れるなど努力を重ねてきました。今後も、心・技・体を鍛え、高い技術を身に付け、さらに上のレベルで競える選手を目指して頑張っていきます。



## 中東諸国からの学校訪問

### 立川第一中学校

外務省が行う「対GCC（湾岸協力会議）諸国人材育成支援訪日研修事業」としてGCC諸国6カ国（アラブ首長国連邦、カタール、クウェート、バーレーン、サウジアラビア、オマーン）の教育関係者8名が、日本の学校や教育関係諸機関の視察等のために11月12日に立川第一中学校を訪問しました。

当日は、学校概要等を説明した後、チーム・ティーチング、少人数学習指導、コンピュータの活用、柔道、スクールランチ配膳の様子等を見ていただきました。英語の授業では生徒から質問も飛び出し、楽しい異文化交流の時間を過ごすことができました。



## 入学時の就学学校の 指定変更についてお知らせします

就学する学校は、お住まいの住所により指定されています。しかし、「指定された学校より隣の学区の学校の方が近いので、そちらに入学したい」と市内で引越し、指定校が変わった場合など、卒業が近いので今通っている学校にそのまま通いたいというご事情によっては、指定された学校を左記の表のとおり変更することがあります。

### 指定学校の変更の要件（市内で学区外通学を希望する場合）

事由	対象学年
1 隣接校※ 通学区に隣接する学校に入学を希望する場合（ただし、中学校においては、通学区の学校より隣接校の方が距離的に近い場合に限る）	新小学校1年生 新中学校1年生 転入時小中全学年
2 市内転居 市内転居で引き続き転居前の学校に就学を希望する場合	小学校全学年 中学校全学年
3 兄弟通学 兄弟が通っている学校に就学を希望する場合	小学校全学年及び新1年生 中学校全学年及び新1年生
4 小中学校の継続 指定学校変更により卒業した小学校区の中学校を希望する場合	新中学校1年生
5 その他 特別な事情があり、教育的配慮が相談の結果必要と教育委員会が認める場合 <例> ・保護者の代わりに監護者（血縁者）が預かる場合 ・おおむねその学期内に転居することが明らか な時、転居予定地の学校へ就学を希望する場合 ・身体的理由 ・いじめ不登校	小学校全学年及び新1年生 中学校全学年及び新1年生

※隣接校の事由に関しては、学校の施設の関係により承認することが出来ない場合があります。

### 支援が必要なお子さんの 小学校入学時に「就学支 援シート」の活用を

「就学支援シート」は、平成22年度小学校に入学されるお子さんに障害や発達障害等により学校生活に支援を必要としている方を対象に、豊かで楽しい学校生活を送ることができるよう、希望する保護者が幼稚園・保育園・療育機関と協力して作成し、支援の内容について学校に引き継ぐものです。

幼稚園・保育園等の就学前機関での指導内容や工夫してきた配慮等について、学校へ伝えることで、入学後、より適正な学校生活の環境をお子さんに与えることを目的としています。

「就学支援シート」は、教育委員会の就学相談を受けていない方も、希望により作成できます。

### 「就学支援シート」の 活用方法 (学校へ出すまでの流れ)

「就学支援シート」を活用する場合は、保護者が就学前機関の先生方と、学校へ伝えたい内容について相談をして記入し、提出することにより、各学校に届けられます。

「就学支援シート」を受けた学校では、この内容を基にお子さんの支援計画を作成し、より適切な学校生活が過ごせるように行きます。

### 「就学支援シート」の作成

「就学支援シート」の作成時期については、入学する学校が決定した頃からとなります。まだ学校が決定されていない方は、就学相談員と相談しながら作成してください。

また、「就学支援シート」の用紙については、市内の幼稚園・保育園及び教育委員会にあります。

### 「就学支援シート」の提出

「就学支援シート」を保護者の方が提出する場合は、教育相談室（錦町3-12-25 錦地域センター12階 ☎(527)6171）まで直接ご持参ください。受付時間は祝日を除く月曜日から金曜日の午前9時30分から午後5時までです。

### 「就学支援シート」の提出期限

入学後のスムーズな支援のために、平成22年1月末日までに提出ください。

なお、関係機関との調整で提出期限に合わない場合は、入学まで随時受け付けています。

### 園学務課・内線337

### 立川市役所新庁舎に 子どもたちの手形を設置

市は、未来を担う市内小学1年生の手形を、現在建設中の市役所新庁舎に設置します。これは、新庁舎建設における市民参加のひとつとして行うもので、市民から寄せられた要望により実現しました。

10月に行われた手形シートの作製では、子どもたちははくすくしたそうにながらも絵の具を手塗つてもうとうと、真っ白なシートに勢いよく手形を押していました。

各自名前の一文字を書き入れたこの手形は、いつの日か市役所を訪れたときに、たくさんのお子さんの思い出を呼び起こしてくれることでしょう。

なお、この手形シートを焼き付けたタイルは、新庁舎の屋上通路両脇に設置する予定です。



# 第29回 立川市中学生の主張大会

## 届けよう 心を繋ぐ メッセージ

「第29回立川市中学生の主張大会」が11月3日(火・祝)、立川市市民会館で開催されました。

応募作品299編の中から、市内12地区の青少年健全育成地区委員会の一次審査及び個人審査の二次審査で選ばれた発表者が、家族のこと、仲間との交流を通して学んだこと、地域での出来事を通して郷土愛を強くしたことなど、日々の生活や体験から感動したことを生き生きと主張しました。また、顔の表情や身体を使って表現する発表の仕方、作品の構成や展開も素晴らしく、今の中学生のレベルの高さに感心させられました。



市長賞には、立川第一中学校3年生曾根原愛乃さんの「心のスイッチ」が選ばれ、街で出会った出来事を通して、人々の他者への無関心・非情に憤りを覚え、助け合う心、他者への思いやりを力強く訴え、多くの来場者が強く胸を打たれました。

なお、各受賞者は一覽表のとおりです。アトラクションは、立川第四中学校生徒による素晴らしい吹奏楽が披露され、来場者に大きな感動を与えました。

中学生の心の一面を知ることが出来た一日でした。

### ● 受賞者一覽 ● (敬称略)

賞名	題名	氏名	学校名・学年	地区
市長賞	心のスイッチ	曾根原 愛乃	第一中学校3年	富士見町
議長賞	わたしのまちに	初道 結里	第一中学校3年	曙町
	「努力は夢を運んで来る」	相馬 稀未乃	第五中学校2年	砂川
教育委員長賞	ぼくは左利き	佐藤 慎也	第四中学校1年	柏町
	マリーゴールドの思い出	杉浦 和真	第四中学校3年	幸町
特別賞	大切なものは	七田 麻子	第五中学校1年	砂川
	私の「ふるさと」	渡辺 夏織	第七中学校3年	西砂川
青少年問題協議会会長賞	「私とスケート」	川畑 有彩	第二中学校1年	高松町
	「命」ある限り	庄司 洸耶	第三中学校3年	錦町
	「やる。」という勇氣	飯嶋 絵美	第三中学校3年	羽衣町
	今、自分がやるべき事	齋藤 里佳	第六中学校1年	柏町
	ガンバレ!おじいちゃん	小野 咲絵子	第六中学校3年	栄町
	祖母の「手」	渡邊 証人	第七中学校1年	西砂川
	努力への問いかけ	岡田 茉莉亜	第九中学校3年	若葉町

## 図書館探検 ⑬

### 「と」資格 コーナー新設



図書館では、平成21年11月25日に就職支援のため「しごと・資格コーナー」を新設しました。この数年就職難の世情を反映してか、図書館のカウンターで就職や資格関係の資料の問い合わせが増えています。そのたびに書架にご案内するのですが、それぞれの分野に分散しているうえ、時期によって貸し出しが集中して、本が残っていないこともしばしばありました。そこで、これまで分散していた、仕事の紹介本、資格に関する本、面接の受け方やエントリーシートの書き方、ビジネスマナー等の本をこのコーナーにまとめて、利用しやすくしました。また、今まではあまり購入しなかった資格や検定の参考書・テキスト等も新たに積極的に購入し、資料の充実を図りました。

さらに、仕事や資格に関する本を集めることで、「こんな仕事や資格があるのか・・・」、「この仕事なら自分に向いているかもしれない・・・」などといった、新しい「発見」や「出会い」を期待しています。

就職支援と一言で言っても、さまざまな希望・条件がある中で自分にうまくマッチした職につけるよう知識や情報の点でお手伝いしたいと考え、今回このようなコーナーの新設となりました。

あわせて11月26日(木)に産業振興課との共催により、東京しごとセンター多摩とNPO法人育て上げネットから講師を迎えてタイプ別2種類の就職支援セミナーを中央図書館と同じ建物内の女性総合センター「アイム」にて開催いたします。

### 教育総務課・内線409

◆教育委員会定例会は毎月2回開催しています(原則として毎月第2・第4木曜日・午後1時30分から)

教育委員会は、5人の委員で構成されます。この委員の合議により基本方針・施策を決定し、その具体的事務を教育長が事務局を指揮監督して執行することで運営しています。

会議は、秘密会として議決された事項を除き、公開とさせていただきますので、傍聴することができません。

会議の開催日時及び会議の議事録はホームページにて公開しています。また、議事録は資料室及び中央図書館にて閲覧することもできます。

### 祝 教育委員会表彰

立川市教育委員会表彰規程に基づき、11月3日(火・祝)に以下のとおり表彰を行いました。《敬称略・順不同》

- ▼北村郁弥(南砂小5年) 全日本ジュニア体操競技選手権大会 個人総合 第4位
- ▼渡邊健太(立川一中3年) 東京2009アジアユースパラゲームズ ボッチャ日本代表 銅メダル
- ▼和田真(立川三中3年) 全国中学校水泳競技大会 男子100m自由形 優勝
- ▼男子50m自由形 第4位
- ▼立川第二中学校吹奏楽部 東京都中学校吹奏楽部 東京連続金賞受賞
- ▼立川第三中学校吹奏楽部 東京都中学校吹奏楽部 東京連続金賞受賞
- ▼立川第四中学校吹奏楽部 東京都中学校吹奏楽部 東京連続金賞受賞
- ▼河野翔一・小嶋春輝・清水拓臣・森本駿平(立川五中3年) 全国中学生空手道選手権大会 男子団体形の部 第3位
- ▼塚本拓也・加藤義隆・田中俊基・島本雄基(立川五中3年) 関東中学校陸上競技大会 共通男子 4×100mリレー 第3位
- ▼田中 優衣(立川五中3年) 全日本中学校陸上競技選手権大会出場 共通女子走り高跳び 第7位
- ▼立川第七中学校少林寺拳法部 全国中学生少林寺拳法大会出場
- ▼立川第七中学校吹奏楽部 平成20年度 TBSこども音楽コンクール全国大会出場
- ▼山口花那瑚(立川八中1年) 全日本少年少女空手道選手権大会 6年生女子形の部 第3位
- ▼沢田日出夫(砂川町) 全国中学校相撲選手権大会個人戦 第5位、全国都道府県中学生相撲選手権大会 団体優勝 個人準優勝

\* 教育委員会では、有益な調査・研究、特に模範とする行為、教育・文化の振興における功績、体育その他の文化活動において特に優秀な成績をあげた個人または団体を、規程に基づき表彰しています。

自薦・他薦を問わず、随時行いますので、詳しくはお問い合わせください。

### 教育総務課・内線409

## 第29回立川・昭島マラソン

「第29回立川・昭島マラソン」の出場者を募集します。主催は、立川市・立川市教育委員会・昭島市・昭島市教育委員会と両市陸上競技協会など。会場は、国営昭和記念公園とその外周道路など。あなたも参加してみませんか。

開催日 平成22年3月14日(日)

- 種目
- ① ハーフマラソン
  - ② 10キロ
  - ③ 3キロ
  - ④ ファミリー駅伝(A・B・C部門)

申込み

- ① 大会事務局
- ② パワーズスポーツ立川店(フロム中武6階)で配布する用紙に必要事項を記入し、12月31日までに郵便局で参加の振込みを(②では直接支払い可)

問合せ 立川・昭島マラソン大会事務局(☎523-0003)、または泉市民体育館(☎536-6711)



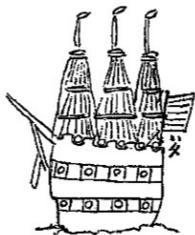
## 立川の歴史と文化財 ⑭

### 「公私立記」



江戸時代末期の柴崎村名主鈴木平九郎が、天保八年(一八三七)〜安政五年(一八五八)の間、公私にわたる出来事を綴った日記で、立川市指定有形文化財になっています。日々の天候や農作業、村に起こった事件、物価、祭礼、役人の動静や近隣の村々とのやり取りなど、事実を淡々と記してあるものですが、江戸時代の柴崎村の生活が生きてきたと伝わってきます。

雨乞いをしたら雷雨となり、



船の形 図のことし  
帆柱三本 ○印大筒  
船之両方江 九拾挺余  
仕掛有之

夏というのに近隣に雹が20〜30センチほど降ったとか、献上鮎の集まりがはかばかしくないので道志川まで鮎を調達に行つたとか、諏訪神社で行われた相撲興行が役人の怒りを買って、謝罪に奔走するなど、当時の人々の悲喜こももが描き出されています。

中でも印象深いのは、弘化三年(一八四六)五月二七日に浦賀に黒船が来た事実が、六月十日に絵入りで書かれていることです。徒歩や馬、駕籠などしか移動手段がなかった当時、遠く離れた場所の出来事が短期間で伝わっていたことには驚かされます。